

平成17年度「日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン」

ブックレット『火のある暮らし（仮）』製作企画案

1. 製作目的

私たちが進めている「日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン」は、薪炭利用という観点から、**多くの国民の理解・参加のもと**持続可能な社会システムを形成することを目指している。

そのためには、まず出来るだけ多くの国民に、薪炭の魅力と適正な利用方法を知ってもらい、実際の行動に移してもらうことが必要である。そして、次の段階として、個人的な生活行動としてだけでなく、各自が生活する地域の中で、消費者運動として、あるいは地域づくりとして、適正な薪炭利用の輪を広げる主体となることが望まれる。さらには、地球温暖化等の環境問題が日々深刻化する中で早急に世論を形成し、新たな社会システムを作り上げる必要性があることから、その動きのコアとなる「日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン」の社会的存在感が増すよう、多くの国民のキャンペーンに対する理解・参加を促進することが望まれる。

以上より、本ブックレットを作成する目的を以下の3点とする。

- ・薪炭の魅力と可能性、使い方等を分かりやすく、明快に伝えること
- ・適正な薪炭利用に関して個人や事業者が出来ることから率先して実行できる行動指針、及び、各地域で薪炭利用の輪を広げるための指針を提示すること
- ・「日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン」への理解と参画を促すこと

2. 構成

ブックレットは、三部構成とする。

第一部では、読者に「火のある暮らし」を身近、かつ魅力あるものとして感じてもらうことを目的として、薪炭を使った料理、暖房、伝統文化、地域づくりについて描く。

第二部では、「火のある暮らし」を実現するために、個人や事業者、地域が如何にあるべきかを明示することを目的として、行動宣言(個人レベルで取り組めることの提示)、生産・流通・消費の各段階における先進的事例(各種事業者、NPO団体等が取り組めることの提示)、地産地消・ラベリング等、流域や地域としての広がりを持つシステムの先進事例(地域・流域レベルで取り組めることの提示)を提示する。

第三部では、国産薪炭の利用を促進する全国的なうねりの中核である「日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン」への参画を促すことを目的として、キャンペーン及びキャンペーン参加団体の活動を紹介する。

3. タイトル案

- ・「火のある暮らし」
(「-マニュアル」、「-ブック」も検討)
- ・「日本の森林を育てる薪炭利用のすすめ」
- ・「火のある暮らし ~日本の森林を育てる薪炭利用のすすめ~」
- ・「薪炭ライフのすすめ」 等

4. 目次案

第一部 「火のある暮らし」の魅力
第一章 火と調理
第二章 火と暖房
第三章 火と文化・地域づくり
第二部 「火のある暮らし」の実現にむけて
第一章 「火のある暮らし」のための行動宣言
第二章 「火のある暮らし」にむけた先進的な取り組み
第三章 「火のある暮らし」の広がりを目指して
第三部 「日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン」の挑戦
第一章 「日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン」とは
第二章 「日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン」のこれまで
第三章 「日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン」のこれから
参考資料 「火のある暮らし」に関連した書籍・商品の紹介

5. 各章の狙いと執筆者

第一部 「火のある暮らし」の魅力

第一章 火と調理

【狙い】

- ・石窯で焼いたピッツアやパン、炭で焼いた焼き鳥等薪炭を用いた料理の魅力や味、雰囲気、環境等多様な観点から描き出す。ガスや電気との比較等科学的な知見も織り交ぜる。
- ・外食産業や家庭での利用のなかに薪炭利用を進めていく上で、現状として何がボトルネックになっているのか、今後どのような流通戦略が有効なのか、ということを知りやすく解き明かす。

【工夫・見せ方】

- ・バラエティに富んだ薪炭グルメの写真を載せる。
- ・薪炭グルメのお客さんの声を紹介する。
- ・「森林バイオマス絵巻」をコラムで紹介する。

【執筆分担】

以下の検討会ゲストスピーカーに執筆を依頼。また、検討会での議論を反映させる。

- ・山下 満智子氏（大阪ガス エネルギー文化研究所・副主任研究員）
- ・レストランの仕掛け人、外食コンサルタント（未定）

第二章 火と暖房

【狙い】

- ・囲炉裏、薪ストーブ、暖炉、ペチカ等、薪炭を用いた国内外の暖房について、その使用方法や魅力を描き出す。

- ・これらの暖房を、現代の住居に導入する上で、何がボトルネックになっているのか、今後どのように解決していくべきか、について解き明かす。

【工夫・見せ方】

- ・国内外の多様な暖房の写真、使い方等をビジュアル的に紹介。
- ・薪ストーブ等のユーザーの声を紹介する

【執筆分担】

以下の検討会ゲストスピーカー、委員に執筆を依頼。また、検討会での議論を反映させる。

- ・深澤 光氏（岩手県林業技術センター）
- ・住宅環境と暖房の関係について詳しい専門家(未定)
- ・岡田 久典氏（NPO法人バイオマス産業社会ネットワーク・副理事長）

第三章 火と文化・地域づくり

【狙い】

- ・第一章、第二章で示したように、古来から日本では、薪炭が生活の中で暖房、調理用燃料として使われてきたために、今も薪炭利用に関連した祭り(火祭り)や伝統(薪能等)として全国各地に息づいている。さらには、現代においてそれらの文化や伝統が、地域づくりのツールあるいはコアとして活用されている例も見られる。これらの事例を基に、薪炭と文化、地域づくりの関係性を描き出す。

【工夫・見せ方】

- ・日本地図と祭りなどの写真を組み合わせて、多様な事例があることを示す。
- ・コラム的に海外の事例なども紹介。

【執筆分担】

以下の検討会ゲストスピーカー、委員に執筆を依頼。また、検討会での議論を反映させる。

- ・広若 剛士氏（国際炭焼協力会）
- ・村田 央氏（フリーライター）
- ・渋澤 寿一氏（NPO法人樹木環境ネットワーク・事務局長）
- ・小澤 庄一氏（(株)三州足助公社）

第二部 「火のある暮らし」の実現にむけて

第一章 「火のある暮らし」のための行動宣言

【狙い】

- ・読者が、まず、日常生活の中で気軽に楽しみながら取り組める薪炭利用の具体的事項を、「行動宣言」として提示する。

【工夫・見せ方】

- ・「行動宣言」十ヶ条を大きく、堂々と掲載する。
- ・それぞれの条項をイラスト、写真、体験談を用いて、取り組んでみようかなと思わせる。

【執筆分担】

検討会結果をもとに、事務局（薪く炭くKYOTO、森づくりフォーラム）で検討、執筆する。

第二章 「火のある暮らし」にむけた先進的な取組み

【狙い】

- ・薪炭利用をテーマにした活動等先進的な事例を紹介することで、地域で薪炭利用に関するアクションを起こそうとする個人や団体のモデル、指針とする。

【工夫・見せ方】

- ・先進事例三つ程度を詳細にストーリー性を持たせて紹介しつつ、コラム的に多様な事例を掲載する。

【執筆分担】

- ・検討会結果、平成16年度報告書をもとに、事務局（薪く炭くKYOTO、森づくりフォーラム）で執筆
- ・農文協の既存資料、取材結果も適宜活用。

第三章 「火のある暮らし」の広がりを目指して

【狙い】

- ・個別の個人や団体の取組みを、ネットワーク化・協同化し、より社会的に存在感のある動きにしていくために、（官民関わらず）既存の連携事業を紹介し、参加を促す。

【工夫・見せ方】

- ・官が主導するもの、民が主導するもの等、分類して紹介する。
- ・事業のスキームを図示してわかりやすく。

【執筆分担】

- ・検討会結果、平成16年度報告書をもとに、事務局（薪く炭くKYOTO、森づくりフォーラム）で執筆。
- ・農文協による既存資料、取材結果を加工の上活用。

第三部 「日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン」の挑戦

第一章 「日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン」とは

【狙い】

- ・「日本の森林を育てる薪炭利用」を促進する全国的な取組みの中核となることが期待される「日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン」への参画を促すことを目的として、キャンペーン及びキャンペーン参加団体の活動を紹介する。

【執筆分担】

- ・事務局（薪く炭くKYOTO、森づくりフォーラム）で執筆。

第二章 「日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン」のこれまで

【狙い】

- ・薪炭キャンペーンのこれまでの活動を紹介する。

【執筆分担】

- ・事務局（薪く炭くKYOTO、森づくりフォーラム）で執筆。
- ・薪炭キャンペーンHPにアップした活動記録を利用。

第三章 「日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン」のこれから

【狙い】

- ・薪炭キャンペーンの今後の予定・戦略を紹介。

【執筆分担】

- ・検討会、戦略会議の議論を踏まえて、事務局（薪く炭くKYOTO、森づくりフォーラム）で執筆。

5. 頒布方法

- ・書店で販売
- ・生協等での共同購入による販売
- ・薪炭キャンペーンホームページでのオンライン販売
- ・薪く炭く、農文協、森づくりフォーラムのイベント等での販売
- ・キャンペーン参加団体のイベント等での販売
- ・薪炭キャンペーン参加団体への配布

6. 仕様

色

表紙：カラー 本編：白黒（一部カラーも想定）

体裁

A4判、20頁、中綴じ、カラー（未定）

発行部数

3000部からスタート

想定価格

1000円程度（未定）

ページ割

目次		想定頁数
第1部 「火のある暮らし」の魅力		小計30p
1	火と調理	10p
2	火と暖房	10p
3	火と文化・地域づくり	10p
第2部 「火のある暮らし」の実現にむけて		小計22p
1	行動宣言	6p
2	先進的な取組み	8p
4	広がりを目指して	8p
第3部 「薪炭利用キャンペーン」の挑戦		小計14p
1	「薪炭利用キャンペーン」とは	4p
2	全国と地域におけるこれまでの取組み	6p

3	「薪炭利用キャンペーン」のこれから	4p
参考資料	「火のある暮らし」に関連した書籍・商品の紹介	6p
		総計72p

7．作成工程
（未定）

8．事務局役割分担
（未定）

以上